

育成モノづくり人材

Vol. 60

滋賀県立八幡工業高校

地元では「八工」の名で知られる滋賀県立八幡工業高校は、1961年(昭和36)に開校した。滋賀県中部の



井関校長

近江八幡市に位置し、県内各地域から生徒が集まる。やればできる「八工魂」をスローガンに、企業に信頼される人づくりに取り組む。機械、電気、環境化学の3学科編成だが、

【DATA】▷校長=井関英二氏▷所在地=滋賀県近江八幡市▷学科構成=機械、電気、環境化学▷生徒数=712人▷主要設備=旋盤、フライス盤、マシニングセンター、FAシステム、各種試験機、高電圧実験装置、流動実験装置など▷主な進路=関西電力、京セラ、ダイフク、島津製作所、日清食品、寺嶋製作所、立命館大学、大阪工業大学、長浜バイオ大学など

たこともあり、その一環として2年生は湖上研修で琵琶湖の水質検査などを行う。「琵琶湖は汚れている」と思っている生徒

「琵琶湖守る」環境化学科

入学してから半年間は学科の区別をなくしたクラス編成の「ミックスポールーム」で、工業の基礎を学習する。「3学科の基礎分野を学ぶため、専門学

環境化学科は、琵琶湖が意外に多い(同)抱える滋賀県の地域性から、環境保全に取り組み技術者の養成に主眼を置く。「環境のた

校生が毎週1回、約1時間かけ校舎の周囲をランニングするもの

鍛錬の場となつてい



実習を通じてスキル向上に取り組む

ら50年以上経過するが、井関校長は「県内では一番新しい工業高校で、卒業生の活躍が認知度を高めてくれている」という。

(京都総局長・谷正美) (金曜日に掲載)